

三里塚通信

No. 2817

2022・10・1

反戦・全学連
三里塚現地行動隊

解放派

最後の「息まで」、野戦病院で生き抜き、

成田治安法と闘った！

心臓疾患をかかえながら「市東さん決戦まで、頑張る」と語っていた朝田しげるさんが、9月20日、野戦病院で亡くなった（75歳）。この機を利用した権力・空港会社・芝山町の野戦病院破壊を許さない。

朝田さんは、少年鑑別所を経て府中刑務所で在監中に、救援連絡セターとつながり、一九七六年三里塚に決起した。鉄塔決戦、開港阻止決戦の頃から野戦病院に常駐し、反弾圧救援運動を闘った。

「障害者」解放の旗を掲げ、

非妥協実力闘争を闘った！

朝田さんは、小児麻痺により足に「障害」を持ち、「障害者」差別の現実社会を生き抜いてきた。一九七九年、三里塚現地で、小川徳太郎さんをはじめとする反対同盟、現地「障害者」を中心に結成した手話講座実行委員会に中心メンバーとして結集し、「障害者」解放の旗を掲げた。手話実は、三里塚闘争・反対同盟と全国「障害者」の結び目として闘った。権力はこの闘いに恐怖し、朝田さんに対しスパイ強要攻撃をかけてきたが、徹底暴露弾劾し、跳ね返した。

実力闘争路線を堅持し、脱落派と常に対決した。三里塚闘争と「障害者」解放に敵対する木元グループを徹底弾劾した。

三里塚・木の根全国共闘は、反対同盟も含んで、手話実や三里塚現地行動隊などの呼びかけで立ち上げられ、朝田さんは、常にその闘いの中にあつた。

私たちは、実力闘争と革命的労農水「障」学共闘を三里塚闘争の勝利の核心として、反対同盟・手話実・三「障」委と共に闘い抜いてきた。

朝田さんが三里塚闘争に刻んだ生き様を引き継ぎ、農地強制収用実力阻止・空港廃港に向け、闘い抜くことを決意する。

